

●2016 年新年のご挨拶（2016 年 1 月 1 日）

REPA 会員、関係者の皆様へ

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。皆様にとりまして本年が輝かしく、明るい、良い年であることを祈念致します。

当 NPO 法人再生可能エネルギー推進協会も、設立以来 10 年が経過しました。当時は一般の方々には再生可能エネルギーという言葉は、ほとんど知られておりませんでした。しかしながら東日本大震災、地球温暖化問題で、広く知れ渡るようになりました。当協会も普及、推進に微力ながら貢献したものと自負しております。

一方普及に伴う量的、技術的、制度的課題も多く見られてきております。電力自由化、CO2 排出量削減目標、カーボンプライシングなど社会の仕組みが大きく変わっております。太陽光、風力、小水力、バイオマス等各々に長所、短所があり、それらを理解した上で、地域の特性に合った導入を考えて行くとともに、地域のトータルの・持続的な自立が出来るようさらに工夫していく必要があります。当協会としてもこの趣旨に沿った活動をさらに推進してまいりますのでよろしくご支援の程をお願い致します。

代表理事 尾園次郎

●ソーラボートの紹介（2016 年 1 月 23 日）

無尽蔵な太陽エネルギーによるソーラ発電は、小は携帯電話の充電用として、また、家庭用発電装置から最近では数万キロワットもの大規模な発電所まで普及が始まっていますが、それを本格的に交通機関の動力源として利用することが始まっています。



明るく静かな 110 人乗りソーラボート
(ハイデルベルグ)



二人乗りソーラボート
(横浜港)

他の輸送手段に比べ移動するエネルギーが比較的少ないボートや小型遊覧船、島嶼国・離島間の人物資の小型輸送船の場合は、ソーラ発電でも十分に可能な技術的、経済的条件が整いつつあります。

世界的には既に 100% 太陽光をエネルギーとする大型のソーラ遊覧船が何隻か就航しており、当協会が 2005 年の 8 月にドイツ再生可能エネルギー視察団を企画した折、ドイツのさる会社のソーラ船がハイデルベルグで大型船を就航していることを知り、ソーラ船の体験乗船をしました。

まさに、ソーラ日和とでもいうような夏の気持ちよく晴れた日にドイツの美しい古都で観光地でもあるハイデルベルグを流れるネッカー川で、乗客定員が 110 名のソーラ遊覧船に乗ることができました

船はとても静かで、振動や排気ガスの匂いも無く、双胴船のデッキは広く、斬新なデザインのキャビンは明るく、兩岸の美しい景色を十分に堪能できました。まるで水面を滑るように走るソーラ遊覧船にまさに脱化石燃料社会のシンボルともいべきものです。乗船したソーラボートには沢山の企業のロゴマークが貼られており、船長の話では、このソーラ船はハイデルベルグ市と協賛する企業の出資により管理運営されており、市当局はこのソーラ船を市のランドマークであるネッカー河で運行することで、再生可能エネルギーと環境保護の必要性を市民や、観光客にアピールし、会社はその趣旨に賛同することで、社会貢献度と企業イメージを高めている、とのことでした。